

立花教授の熱弁、聴衆を魅了

昨年11月1日、それまでの猛暑がウソのような初冬を思わせる寒空の下で、第24回東京学芸大学ホームカミングデー記念講演会が南講義棟410教室を会場にして開催されました。今回は、いま「日本の二季」説の提唱者として話題の三重大学教授立花義裕先生をお招きし、「これからの日本はどうか？—異常気象の未来予測—」と題する講演をしていただきました。立花先生からは2時間近くにわたり、地球温暖化問題が今日いかなる事態を引き起こしているか、地球上で最もその影響を受けやすいところに位置している日本の今後はどうなるのか、それに対して私たちはどのように対処すべきか、ということについて詳しく解説していただきました。先生の熱のこもったお話しぶりに私たち聴衆はただただ圧倒されんばかりでした。立花先生にご

寄稿いただいたこの講演の内容は、『辟雍』22号に掲載されます。ご一読をお薦めします。大学祭期間中とはいえ、当日の参加者は100名弱といささか淋しかったのですが、先生の著書の売れ行きは好調でした。また、講演会終了後には、20周年記念飯島同窓会館で立花先生を囲む懇親会が和やかに行われました。(馬淵記)



<https://www.hekiyou.com/2025/11/post-166.html>

学芸大学キャンパスガイド②

「放射性同位元素総合実験施設」見学記



本学のキャンパスマップ

矢印の9番の建物が放射性同位元素総合実験施設



放射性同位元素総合実験施設玄関 (一部加工)

辟雍会の会長から「学芸大学の施設を調査し、紹介して欲しい」という依頼を受けた時、私の頭に真っ先に浮かんだのはこの放射性同位元素総合実験施設(以下「R I (ラジオアイソトープ) 施設」といいます)でした。私たち美術科の学生の間では、美術科の金工室がこの施設の近くにあるために根拠のない噂が広がっていて、個人的にも気になっていました。

そこで私たち辟雍会学生リポーターの3名は、辟雍会理事で物理学分野の荒川悦雄先生及び辟雍会理事の小澤一郎先生とともに、この施設の見学をお願いし、2025年7月11日、R I 施設長の環境科学分野の佐藤公法先生に施設の内部を案内していただきました。(2面につづく)

施設長のお話によると、R I 施設とは放射性同位元素を用いた実験や測定をする施設だそうです。また、放射性同位元素とは、非放射性の安定な元素に対して、原子核の陽子数が同じで中性子数が異なる放射能を持つ元素のことだそうです。このような施設は、一般に理工系や医学系の研究機関に設置され、自然界の基本法則を探る研究分野や生体、生命、医療、環境などのさまざまな分野の研究者たちに活用されているということでした。

学芸大学では物理科学分野、環境科学分野、生命科学分野の先生や学生たちがこの施設を利用しているそうです。また、2015年度から2017年度には、「国際原子力人材育成イニシアティブ事業」の一環として「教員養成系大学の特徴を活かした高度原子力教育カリキュラムの開発」という研究プロジェクトが組織され、このR I 施設を利用して「高度原子力・放射能教育

カリキュラム」が作成されるという成果が生まれました。その時、学芸大学の理科の学生たちがこの施設で管理区域（放射線被曝を防止するため特別に管理されている区域）での実習や除染に関する模擬実験などを行った他、多くの現職教員の先生方が研修を受けられたそうです。

当初私は、このような原子力や放射能に関する研究は学校教育とあまり関係がないと思っていましたが、原子力発電や放射線治療など私たちの生活とも関係が深く、教員養成系大学にR I 施設があることの意義が少しばかり理解できたように感じました。また私にとっては、美術科で広まっているこの建物に対する噂や疑念を完全に払拭することができたことが大きな成果です。佐藤先生、本当にありがとうございました。

(文責：B類美術科2年 千葉理平)



通称「弁当箱」。素人には正直分からない装置であるが、そのデザイン性に感銘を受けた。



RI施設の内部に立ち入る際はこのスリッパを履かなくてはなりません。底が分厚く、履き心地の良いものでした。この後、私たちは放射性物質が付着しないように、ズボンの裾を靴下の中に入れました。

このRI施設は学芸大学の西の端にあります（地図参照）。施設内に入るためには草木が生い茂る細い道を通らなければならないため、建物の存在自体に気付かない人も多いのではないのでしょうか。今回、RI実験施設長と放射線取扱主任を兼任しておられる佐藤公法先生からいろいろとお話を聞くことができました。ただ、安全管理上この施設には情報を公開できない箇所が多く、特にここで行われている研究内容については詳しく説明できないことを予めお断りしておきます。

それでも、RI施設内部の構造や佐藤先生から伺ったお話は、私にとって驚きの連続でした。まず、この施設に入る際には靴下が必需品になっていました。RI施設の床に触れないようにズボンの裾を折り込むために靴下が必要であり、また足の露出を防ぐためにも欠かせないのだそうです。このように安全対策上の配慮が徹底していることに感心しながら、私自身がそういう場所に身を置いていると思うと、随分緊張したことを覚えています。先生方は一年を通して四六時中この施設の安全管理に気を配っておられ、小金井市で地震があるような場合には、真っ先にこの施設のことが気にかかるのだそうです。

次に、施設の内部を見学させていただきました。この建物は2階建てで、今回私たちが見学したのはその1階部分です。施設の内部はいくつかの部屋に仕切られていて、それぞれが独立した研究室のようになっていました。佐藤先生からは施設内に設置されている機器についても詳しく説明していただきました。その際、機器の価格についてクイズ形式の質問を受けましたが、どれも私の想像以上に高価なものばかりで、学芸大学にこういう施設があること自体を全く知らなかった私でさえ、何となく誇らしく思えるほど高度な機器が揃っていました。とはいえ、私たちの周りにこれほど緊張感を伴う場所はそんなにはないだろうと思います。窓に近いところには実験後の放射性廃棄物を保管するための部屋があり、実験の準備からその片付けに至るまで、全ての行程で神経を集中しなければならない研究の大変さも、出来上がった論文を読むだけでは分かりません。

今回の調査は、私にとって異次元な空間に踏み込んだような体験でしたが、理科の専攻生たちにとっては貴重な研究教育の場の一つでした。そうした事実気づかされた時、私たち学芸大生に与えられた高度な専門性を身につける機会には、もっともっと大切にしていかなければならないと痛感しました。

（文責：B類美術科4年 桑原羽菜）

「辟雍会リエゾンオフィス」の近況報告

辟雍会のバーチャル組織「辟雍会リエゾンオフィス」は、既設の教室・学科・研究室等の同窓会、サークル・同好会・クラス会等の諸団体、および新規に設立される団体と連携して、辟雍会情報を各団体会員の皆さんにお届けし、本会と各団体会員との連携を密にするためのウェブ上のバーチャルな組織です。

(<https://www.hekiyou.com/2022/12/post-122.html>)

2022年11月に発足した本オフィスの2025年12月現在登録済み団体数は10団体、会員数合計は3914名です。本オフィスでは登録団体から寄せられる活動報告や各種情報を辟雍会ホームページに掲載して活動支援金を給付できるようになりました。また登録団体が使用するホームページ用サーバの整備も現在進行中です。各登録団体におかれましては辟雍会からの応援が必要な場合は気軽にご相談ください。

[登録年度別登録団体名]

2022年度	東京学芸大学アマチュア無線クラブ、弓道部、男子ラクロス部、茶道部 東京学芸大学物理学教室同窓会、東京学芸大学物理同好会
2023年度	東京学芸大学幼稚園科同窓会(たんぽぽ会)
2024年度	東京学芸大学数学科同窓会、東京学芸大学英語科1968年3月卒業クラス
2025年度	東京学芸大学生物科同窓会

文責： 情報化推進部長 荒川悦雄
2025年12月17日

News

<https://www.hekiyou.com/2026/02/-2026.html>

2026年1月25日に開かれた辟雍会新春特別公開講座の集合写真です。(撮影：布施絢子さん)
この内容については次号で紹介します。



2026年1月25日 東京学芸大学 辟雍会 新春特別公開講座 「ものづくり・まちづくり・ひとづくり」シンポジウム

起業する先輩たち！

「ものづくり・まちづくり・ひとづくり」 シンポジウム

東京学芸大学辟雍会では、学芸大学卒業後に日本の各地で起業して、とてもユニークな「ものづくり・まちづくり・ひとづくり」活動を展開している卒業生たちを招き、それぞれの日頃の活動について思う存分語っていただきます。将来、教職とあわせてクリエイティブな活躍の場を目指している学芸大生の皆さん！この公開講座にふるってご参加ください。参加費は無料です。

【日 時】 2026年1月25日(日)14:30～17:15

【会 場】 東京学芸大学芸術館学芸の森ホール

【講師 & パネラー】

- ◎ **篠田花子さん**(大学院美術教育専攻2016年修了、岐阜県在住)
探究型学童保育「ヒトノネ」、放課後等デイサービス「みちな」、児童向け個別指導塾「アイマル」、中高生のクリエイタークラブ」等を運営する。
- ◎ **阿部円香さん**(K類多言語多文化2014年卒業、秋田県在住)
Hotel & Bar CAMOSIBA経営、家業を継承して横手産りんごの発泡酒を開発、タッブルームと貸し宿を兼ねた複合施設を運営する。
- ◎ **原井紗友里さん**(K類国際教育2010年卒業、富山県在住)
KKオズリンクスを経営し、八尾の「ベースOYATSU」で宿・カフェバー・レンタルスペースを運営。一方で、着物のアパレルブランドtadasを立ち上げる。
- ◎ **松下 光さん**(A類美術2019年卒業、日本各地を移動して活動)
ウェブ制作やグラフィックデザイン活動を展開。シェアハウスの運営や生徒学生向けのオンラインイベント企画やまちづくりコンテンツデザインにも携わる。

主催：東京学芸大学辟雍会

☎ 042-321-8820

メール hekizou@u-gakugei.ac.jp